海洋情報課 海洋空間情報室 永井 豪 海洋情報課 苅籠泰彦

1. はじめに

国際海洋データ・情報交換システム (IODE) 決議に基づく品質管理フレーム ワーク(IODE-QMF)とは、2013 年の第 22 回会合で採択された枠組みであり、各国 国立海洋データセンター(NODCs) が品質 管理マネジメント枠組み(QMF)を導入することにより、データ品質の向上及びデータのセキュアアーカイブを可能にすることを目的としている。筆者(永井)は日本の国立データセンターを代表して、2015年12月にIODEの開催するQMFのワークショップ会合に参加しており、同会合で紹介されたQMFの概念やIODEが重視するポイント、我が国が導入する上で考慮すべき事項を報告する。

2. 品質マニュアル (IS09001)

QMF は、「対象」、「組織体制」「処理手続き」等を規定し「品質マニュアル」として文書化することにより、製品の品質を管理・保証するものである。品質管理の国際規格として ISO9001 があり、IODE も取得を推奨している。

IS09001 では組織の状況、リーダーシップ、計画、支援、運用、実施状況の評価、改善を7つの原則として定めており、それぞれの項目について文書化を実施する必要がある。

3. IODE が重視しているポイント

IODE-QMFでは、ISO9001で求められている7つの原則を実施するにあたり、「プロセス手法」を重視している。

プロセスとは、インプットをアウトプットに変換するために資源(時間・人・

データなど)を使用する一単元の作業を 指し、プロセスの連続により作業行程を 明確化し、作業の品質を一定以上に保つ 管理の枠組みを作成する手法がプロセス 手法である。

IODE-QMFでは、プロセスごとにプロセスオーナー(責任を持つ者)を設置することにより、各作業での責任を明確にすることを求めている。

そして、このプロセスを PDCA サイクル に当てはめることにより、人やデータの 動きを可視化し、かつ、責任の所在をは っきりさせることができるようになる。

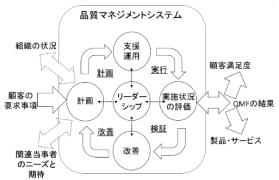


図: PDCA モデル IS09001:2015

4. 我が国の導入にあたって整理すべきポイント

我が国では、データの処理やクウォリティーチェックに関するルールは決められマニュアルも整備されているところだが、各プロセスの明確化、プロセスオーナーの設置について今後整理・検討していく必要があり、同時に IODE-QMF が求めている IS09001 の7つの原則に沿った各項目のドキュメントである品質マニュアルの作成を進めなければならない。